

【様式①】令和6年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 岐阜市立長森東小学校

校長名 栗本 裕明

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> ICTを効果的に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けた指導改善・方法の充実に努め、教育DXを推進する。 自己の生き方を見つめ、自他の生命の尊厳への理解を深める学びを推進する。 	A	<p>ロイロで資料を子どもに渡すことで課題解決のための資料の読み取りをしやすくなった。スタサプを活用し、個に応じた課題に取り組むことができた。92%の児童がタブレット端末を進んで活用していると自己評価している。英語の学習では、ICTを活用したスモールトークなど言語活動を位置付けた学習過程を考えることができた。道徳や特活を通して生命の尊厳への理解を深めた。</p>	<p>異学年とのイベントなどを増やすことで、視野の広い対応ができる人になる。ICTはもちろん大事だが、話す、聞く、表情をつかむ等、人と人とのふれあいの面も生かしてほしい。タブレット端末の活用場がさらに広がるとよい。保護者アンケート、児童アンケート結果からも子どもたちが充実していることが分かった。</p>	<p>ロイロノートやスタサプの使用法の工夫等、ICT活用推進教師を中心に、情報推進委員会と交流し、全職員が活用できることを目指す。いじめ対策監からの提案を受け、各学級のいじめ0宣言の中間の振り返りを通して、学級に合った指導を行う。</p>
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 「ぎふMIRAI's」の具現に向け、地域の教育資源(ひと・もの・こと)を活かした教育活動を実践する。 コミュニティ・スクールの組織や取組を積極的に活用し、家庭・地域との協働事業を計画して、地域と共にある学校づくりを推進する。 幼保小の連携を図り、カリキュラムの連続性について、指導内容や指導方法を見出す。 	A	<p>JA,社会福祉協議会など、関係機関との連携を図って活動することができた。地域の探検、昔あそび等にCSボランティアを活用し学びを深めることができた。96%の保護者に外部人材の積極的な活用がされていると評価していただいた。1・5年生の幼小交流活動では計画的に話し合いを行い、園児のためのおもちゃづくりに取り組むことができた。</p>	<p>地域の施設や団体、農家、お店との連携と加えて、今の会社、企業は地域貢献に力を入れているので、連携を考えてみてほしい。防災の取組はこの地域の資源をうまく活用されていると思う。幼小との交流では架け橋期のカリキュラムと一緒に検討できるとありがたい。</p>	<p>地域の教育力を活用するために、学年主任が支援推進委員会を積極的に活用する。幼保小の連携の中で、スタートカリキュラムの見直しを行い、架け橋期のカリキュラムへとつなげていく。</p>
あたたかさや働きがいにあふれる学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 業務内容の精選や効率化、ICTの効果的な活用を図り、子どもと向き合う時間を確保する。 教職員同士が、互いに支え合い、高め合っていく協働的な関係を醸成する。 	A	<p>ここთანで子どもの変化を確認することができた。93%の児童が、困ったときには先生が助けてくれると自己評価している。学校内で教科担任制にすることで教材研究が充実できた。教員同士聞き合ったり、アドバイスしたりした。価値観の共有やいろいろな活動の共通理解を図ることができた。</p>	<p>児童アンケートは勉強や生活で困ったときには先生が助けてくれると思うが93%でとても高い。子どもが困ったときに話やサインが出せること、また先生方がよく見ていて気付くことの両面があると思う。教科担任制は特に実技についてはより専門的になり望ましく思う。</p>	<p>教育相談の期間を確保する(自分見つけアンケートの期間に設定済み)。ここთან等の活用を進め、不適応に対する早期発見・早期対応に努める。</p>
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	<ul style="list-style-type: none"> 教職員間で子どもの共通理解を図り、いじめ・不登校の未然防止、早期発見・早期対応が、迅速かつ適切にできる組織的な校内体制をつくる。 家庭・地域と連携を図り、災害発生時には、「自分の命は自分で守る」という意識を高める。 	A	<p>いじめや生徒指導事案の対応は組織的に行うことができた。88%の保護者に、学校は情報を把握し未然防止に努めていると評価していただいている。支援が必要な児童の交流を行い、学年内で共有できた。防災教室での地域との連携を図ることができた。</p>	<p>災害はいつ発生するか分からないので、場面にとって対応が必要だと考える。幼小で合同の避難訓練ができるとよい。下校の見守りボランティア時に、道路の中央でふざけたり、車と衝突しそうになったりした場面を見て、心配している。何かトラブルが起きたとき、先生が素早く対応してくれている。</p>	<p>現在行っているように、いじめが疑われる事案については、担任、学年主任からすぐにいじめ対策監に報告し、その日のうちに対策会議を行い、方針を決定する。</p>
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	<ul style="list-style-type: none"> 施設設備等は、使用頻度や管理状況、時間の経過など様々な要因により思わぬ異常をきたす可能性があるという意識をもち、児童の安全安心な校内環境を第一に考え、定期的、臨時的、日常的に安全点検を実施する。 個人情報、ICT機器の定期的な点検による適切な管理を行う。 	A	<p>毎月の安全点検を徹底した。日々の生活の中で、危険だと気付いた事案についてすぐに対応できた。91%の保護者に、学校は積極的に子どもたちの安全を守る指導を行っているとして評価していただいている。情報セキュリティチェックやコンプライアンス研修等で意識が高められた。</p>	<p>安全点検で、確認のために叩く、揺らす、蹴る等の方法の工夫も生かすとよいと思う。安全衛生、設備の面でもう少し市の教育予算を増やしてもらい、子どもたちのために、設備を整えてもらいたい。設備に危険や不安を感じることはないが、全体的に年季が入っている印象はあるので、引き続き点検は十分に行ってほしい。</p>	<p>情報セキュリティについては情報主任を中心に、都度確認をして徹底していく。修繕案件については、都度教頭が施設課に申請する。安全点検を慎重に行い、児童に対しても安全に使用することを引き続き指導する。</p>